

# 宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 平成20年度博士論文要旨

## クリティカル看護への科学的看護論の 適用に関する研究 －事例検討会における看護者の 認識の分析より－

寺島久美 (理論看護学)

**【キーワード】** クリティカルケア, 看護理論の適用, 科学的看護論, 事例検討, ナイチンゲール看護論

本研究は、看護の独自性を見失いがちなクリティカル看護において、科学的看護論の有用性を検証した研究者と、クリティカル看護に携わる看護師グループとの協働で、科学的看護論を適用した事例検討を行ない、その過程で生じた看護者の認識の変化を明らかにすることを通して、クリティカル看護に科学的看護論を適用することの意義と課題、および看護理論適用のための方法的知見を得ることを目的としている。

研究方法は、事例検討会の会話の内容を録音し逐語録として作成したもの、および参加者全員が事例検討終了後に記入した感想カードから、性質が異なると思われた8事例検討を選定し、看護者としての認識の変化をたどりながら重要と思われるキーセンテンスを選び研究素材とした。研究素材をもとに、まず、看護者の表現の背後にある認識を読みとり、科学的看護論を媒介にした科学的抽象によって看護者全体の認識の変化の過程的構造を抽出し、全研究素材の共通構造を明らかにした。次いで、看護理論の修得段階の異なる看護者間の認識の相互作用に焦点を当てて全研究素材に共通する構造を抽出し、それぞれの結果を対照統合し、以下の結果、および看護者の認識の変化の実態を明らかにした。

- 1 科学的看護論を適用した事例検討会によって看護者全体の認識は看護一般論に貫かれた諸現象の捉え方へと統合・発展し問題解決に至っていた。その発展は現象像の豊かな看護師と立体的な対象像を描くことになじんでいる研究者という異なる特徴をもつ認識の相互浸透-すなわち一般論に照しながら具体・抽象間を自在に動く認識のはたらきおよび他者への観念的追体験によってもたらされていた。
- 2 科学的看護論を適用した事例検討の意義は、看護者としての自らを内観して新たな目標像を描いて看護者としての使命感を高め、対象の変化や実践の理論的根拠を見いだすことで看護の喜びや達成感を分かち合い、その過程において看護理論の意義を実感するという看護者個々の認識の発展をもたらし、それがチーム全体の実践の変化へと拡大して対象のよい変化を支えていったことである。
- 3 課題は、理論の基盤を認識に形成し自在に活用する段階に至るには積み重ねの訓練を必要とすることである。初期の段階では概念枠組みの理解と日常的ではない認識のはたらきを要求されるため、苦痛や困難を感じてしまい、理論修得を妨げる可能性があるからである。
- 4 クリティカル看護に科学的看護論を適用していくには、今回用いた事例検討の方法が有用であり、その際、看護理論の修得段階が異なる看護者というメンバー構成が重要な意味をもち、加えて個人的・構成員的・職場環境的要件が有機的に作用することでその実現が期待できる。